

建築人

2026

3

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.741





このページの新企画「建築人×写真人」の掲載希望建築物を募集しています。本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを楽しんで頂ける方を歓迎いたします。皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。会員の皆さまの応募をお待ちしています。

「MOAIの独言」

日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.03 No.741

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「けやき通りの家」2023年

第17回 建築人賞奨励賞 受賞作品

設計：大西憲司設計工房

施工：ヒロタ建設

撮影：福澤昭嘉

都市型住宅として、比較的密集した住宅地の中にある45坪の敷地に対して、プライバシーとセキュリティを確保し気持ちよく暮らせるように、RC造3階建の中庭と屋上庭園を設けたセミコートハウスとした。各室を中庭に面して配し、3階のリビング吹き抜けに宙に浮いた茶室を設け、緑や自然を享受できる住まいとした。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「GRANDREVE 代官町」

設計：アイ・エフ建築設計研究所

施工：丸山アーバン

「唐津のリモートハウス」

設計：大西憲司設計工房

施工：のあ建築設計

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築

「佐賀県立図書館」1962年

地域に根づく温かさと気品を求めて / 松隈 洋

建築人 No.741 2026年3月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年3月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



神奈川県平塚市の静かな街並みに建つ共同住宅である。狭小な敷地条件を前提に、建物はコの字型とし、周辺環境に配慮しながら採光と居住性の両立を図った。力強いコンクリート打放しの外観に対し、中央部には2層吹抜けフレームのエンタランスとレンガタイル貼りの共用階段を設け、彫りの深い陰影のある表情を創出した。全戸をメゾネットタイプとすることで、生活空間と私的空間を階層に分け、家族構成やライフスタイルに応じた柔軟な使い方が可能な住戸構成とした。外部打放しの強さに対し、居住者の暮らしの背景となるインテリアは、用途や居住者の個性に委ねられる自由度の高い白い空間とした。

所在地：神奈川県平塚市
 用途：共同住宅
 竣工：2024.08
 構造規模：RC造4階建て
 敷地面積：204.10㎡
 建築面積：120.96㎡
 延床面積：449.78㎡
 写真：アド・グラフィック



大阪在住でリモートワークを行う若い夫婦が帰郷し、実家の前に建つ既存の2階建住宅を解体、新たにリモートハウスを計画した。既存建物が庭や母屋に影を落としていたことから、南東側を平屋建として中庭および実家へ十分な採光を確保し、強い西日を受ける北西側には2階建を分棟配置した。棟間を幅50cmのコの字型ガラスによるEXPJで接続し、構造的な合理性と光を帯びた「間」の存在を両立させた。平屋棟は、将来の家族構成を見据えLDKをワンルーム空間とし、一角には子どものワークスペースを設けた。2階建棟の1階には夫のワークルームと水廻り、2階には主寝室と2室の子ども室を配置した（当方は1室を妻のワークルームとして使用）。新たに設えた中庭を介して、ほどよい距離を保ちながら家族の絆を紡いでいく場となることを願い計画した。

所在地：佐賀県唐津市
 用途：専用住宅
 竣工：2025.12
 構造規模：木造2階建+平屋建
 敷地面積：178.14㎡
 建築面積：91.77㎡
 延床面積：113.02㎡
 写真：福澤昭嘉

「建築人賞」作品募集

2025年



審査委員長 古谷 誠章

早稲田大学 荣誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所(～1987年)
1984年 (有)ナスカ(NASCA)設立
1984年 早稲田大学理工学部助教授(～1987年)
1997年 早稲田大学理工学部教授(現・創造理工学部教授)(～2025年)
2017年 第55代 日本建築学会会長(～2019年)
2020年 早稲田大学芸術学校校長(～2024年)
2021年 東京建築士会会長(～2025年)
2024年～ 日本建築士会連合会会長

「建築人Gallery」掲載作品は『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 関西クレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 株式会社 Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103

視点交差 建築人×写真人

建築と写真が交差する、建築人ビジュアル企画

本企画は会員が手がけた建築作品を写真家MOAIによる独自の視点と表現で、どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。

写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを楽しんで頂ける方を歓迎いたします。

皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。

会員の皆さまの応募をお待ちしています。



募集対象建築物

本会会員が設計・施工などに関わった建築物
(竣工年・建物用途・規模不問)

条件：撮影・掲載許可が得られるもの
(施主様等への許可は応募者が取得)



応募方法

詳細問合せ・申込は事務局までご連絡ください

掲載費用：15,000円(税込)

応募に必要な情報(申込後用意頂くもの)

- ・竣工写真2～3点(建物の伝わるもの)
- ・建築物名称、所在地、竣工年
- ・設計者(設計事務所名または設計者名)
- ・施工者



掲載内容

掲載場所：おもて表紙の裏ページ

- ・写真家MOAIによる撮り下ろし作品(大サイズ)
- ・応募時の竣工写真(小サイズ)
- ・建築物名称、竣工年、設計者名、施工者名
- ・写真家名称、など

視点交差 建築人×写真人



掲載ページイメージ

写真家 MOAI (プロフィール)

岩手県出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に関わる
1996年フリーランスとなり
Photo Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真中心に活動中
建築人2025年7月号より表2に「MOAIの独言」掲載中

「建築人」は会員の皆様で創る会誌として、本企画を進めています。

動静レポート

会長動静

- 1/26 大阪都市景観建築賞表彰式
- 1/27 大阪府建築士事務所協会新年会員交礼会、大阪バス協会新年会
- 1/28 近畿建築士会会長会議、近畿建築士会協議会
- 2/8 学園前建築懇話会
- 2/9 第4回関西 Innovation Cross Forum
- 2/10 大阪工業大学優秀卒業生表彰
- 2/11～12 命を守る一部屋断熱・耐震意見交換会（盛岡市）
- 2/13 正副会長会議、運営会議
- 2/16 近畿建築確認検査協会・澤田会長面談
- 2/18 理事会
- 2/19～25 インドネシア海外研修旅行

2月度 理事会報告

日時 2月18日（水）16:00～18:00
場所 本会東会議室及びWEB
出席 理事 40/45名 監事 3/3名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	1月計	累計
収入	7,705,852	143,367,034
支出	8,655,298	125,380,580
差引	-949,446	17,986,454

(人)	1月	入会	退会
正会員	2,093	2	-7
準会員	30	2	0
特準会員	22	0	0
賛助会員	172	18	-2
計	2,317	22	-9

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 令和7年度決算見込と令和8年度予算案
令和7年度決算見込は行政受託事業やCPD登録、定期講習等の収益増により、約1,400万円の収支差額で推移していることを報告しました。また、令和8年度予算案は収支総額1,200万円、差引額0円として承

認しました。

(3) 役員候補者選考委員会の報告

1/17の令和8・9年度役員候補者選考委員会において承認された理事候補者を、定時総会に諮ることを承認しました。なお、理事の任期は2年とし再任は妨げないと本会定款で定められており、副会長の任期は就任後10年を超えず、その留任は会長が時事に対応して適宜判断すると内規で定められていることを再確認しました。

(4) 行政相談に関する大阪官公庁等連絡会（仮称）への加入

総務省近畿管区行政評価局より依頼を受け、①災害発生時の生活支援情報ガイドブックの配布、②災害専用フリーダイヤルの設置、③被災者のための特別行政相談所の開設等を行う、当連絡会への加入を承認しました。

【報告事項等】

(5) 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会（一般診断法）のテキスト改訂に伴う大阪府への提案

講習会で使用する日本建築防災協会発行のテキストが改訂されたことを受け、より適格な耐震診断・改修が実施されることを目標に、過去の講習修了者の再受講および技量確認を大阪府へ提案予定であることを報告しました。

(6) 事業執行報告

定款第21条4項に基づき、会長、副会長、常任理事（部門長）、専務理事が事業執行報告を行いました。

(7) 本会の組織改編案

本会がより大きく社会に貢献する組織へと成長することを目標に、①安定的な事業基盤を維持する収益力強化、②会員の満足度と定着を図るサービス強化、③自治体や地域社会との連携強化、④技術の継承や専門性の強化、⑤国際化やDXなど外部環境の変化への対応を5つの柱として、今後の組織改編や活性化につなげることを組織改革提案チームが提案しました。

建築関連学校優秀卒業生16名を表彰

本会では、例年建築業界の将来を担う府内各校の優秀な学生を表彰し、卒業後の励みとして一層の精進を重ねていただくため、建築関連学校の優秀卒業生を表彰しております。今年度は16名の卒業生を表彰し、表彰者在席校は、大阪市立大学、大阪公立大学、大阪芸術大学、大阪工業大学、大阪大学、関西大学、近畿大学、摂南大学、大和大学、大阪工業技術専門学校、中央工学校 OSAKA、修成建設専門学校、日本理工情報専門学校の13校16学科です。



第18回建築人賞1次審査会開催

2月24日（火）に大阪府建築健保会館にて、第18回建築人賞1次審査会を開催いたしました。

本賞は本誌「建築人」のGalleryに掲載された建築作品を審査対象とし、審査委員長により選考する表彰制度です。

今年度は2025年1月号～12月号までに掲載された36作品が審査対象となり、審査委員長は古谷誠章氏が務めてくださっております。受賞作品は5月の本会定時総会にて表彰式を行う予定です。



今さら聞けないシリーズ もう一度学ぶ 衛生 給排水設備

日程：令和8年1月19日(月)
会場：TOTOテクニカルセンター大阪
参加者：20名

今さら聞けないシリーズは学生時代に学んだはずの知識・技術、建築士となって「あの時もっと勉強しておけばよかった…」そう思った思いの方や明日のお仕事へ役立つ知識を求める方への講習会です。

今回はTOTO株式会社様の協力で衛生給排水設備の基本から、通常では聞けないドキッとすること内容など、現物を見ながら、実務に役立つ知識をもう一度学んでいただきました。

便器等の衛生器具は、なぜ主に陶器で作られているのか、優れた耐薬品性や強度、注意事項などもう一度学ぶところからスタートし、給水・排水の必要水圧、便器の各給水方式による給水負荷。給水圧力の特性やウォーターハンマーの原因。

フラッシュバルブ方式を最新のフラッシュタンク方式に更新するメリットと注意事項、節水が進む洗浄方式の進化とトラブル



事例、パブリックトイレにおける湿式工法から乾式工法への変化に伴い発生するトラブル事例、節水が進む中で生まれた意外な原因でのトラブルと安価に出来る対策などの座学に加え、実験施設のスケルトンモデルを使っての原理の解説など、建築士が設計やお施主様に説明することを前提に講習会を開催致しました。

終了後のアンケートでは、ほぼ全員の方が



相原康隆(賛助会員委員会 委員長)

ら満点に近い高い評価を頂戴しました。賛助会員委員会では、建築士の実務の少し先の技術、知っておきたい知識を学ぶ講習会等を企画したいと思っております。最後に講師の皆様、参加者の皆様に対して、この場を借りて心より御礼を申し上げます。



ココ・シレ ～メーカー紹介～

「アルミハニカムパネルの挑戦」

アルミハニカムパネルと言えば、第二次世界大戦頃、航空機の軽量化を目的にアメリカを中心とした航空機産業において誕生し、軍需技術として金属ハニカム構造が発展した。1970年代に入り、建築資材として外壁や内装に使われるようになり、日本では1980年代後半以降のバブル期に、まだまだ高級な建材ではあったものの、軽快でシャープな建築デザインを構築する上で、庇やキャノピー等の屋根、外壁に多用されるようになった。

安田株式会社はアルミ素材製品のサプライヤーとして、先行メーカーのアルミハニカムパネル事業の承継を受け、2020年8月から時代に即したオリジナルの製品開発を行い、先行するピックアップメーカーと建築業界の要請に挑戦している。アルミハニカムパネルは溶接式ハニカムと接着式ハニカムがある中で、量産性や低コスト化、製品の安定性や軽量化の追求を考え、接着式ハニカムを採用した。接

着剤の強度と弾性と言う相反する性能を追求し、業界で一番の強度数値を実現することで、アルミハニカムパネルの弱点である熱や水への高い耐性と安全性を確保し、大判で安定した平滑なパネルの製作を特徴としている。2024年、吊下げ式と下支持式の二つの支持方式を用意し、接着式アルミハニカムパネルとして、独自の耐火認定を取得した。最薄で85ミリ厚のパネルで、認定範囲の有機物量以下であれば、化粧板や化粧シート、塗装などの多彩な表面仕上げを可能とする耐火認定を取っており、豊富な意匠に対応できる。もう一つの特徴として、耐火シールを使わない解放目地部も含めた厳しい耐火試験をクリアし、パネルの高い吸水性への配慮と意匠性を重視している。設計段階から検討協力を行い、設計者のさまざまな思いに沿った建築デザインの実現に貢献している。建設資材の工業製品化や製作効率を重視する製品の簡素化が進む時代に

松下典央(建築情報委員会)

において、設計に小回りが利き、オリジナル性の高い意匠を実現する可能性を大いに秘めており、建築界に挑戦するパワーとユニークさを感じる。

(本誌2026年2月、3月号に広告掲載)



■お問合せ先

安田株式会社 事業開発本部
大阪府大阪市中央区南船場1-11-9
<https://ashibane.co.jp>
yasudainfo@ashibane.co.jp
06-6251-7152(担当 打越)
※当会賛助会員

Information

建築士会からのお知らせ

【WEB版】確認申請の構造図書作成講座 2/9～3/31 CPD3単位

※2025年6月12日に開催、10月1日～12月26日に配信した同名講座と同内容です。

今まで作成したことがなかった確認申請の構造図書。その作成の基本を知るだけであなたは確認申請の構造図書作成のマスターと呼ばれる。そんな講座がスタート!

訂正項目が少なく審査がしやすい構造図書が作成できれば建築着工も安心。

常に変化している確認申請の世界。改正された壁量計算基準や柱の小径などの、木造使用規定(在来軸組工法)の内容が解る。

配信期間 2/9(月)10:00～3/31(火)17:00

受講料 会員4,000円

後援団体4,500円

一般5,000円

令和7年度監理技術者講習

3/11 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 3/11(水) 8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

令和7年度 建築士定期講習

3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築

士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼DVD講習

日程・会場・定員

3/26(木) 大阪府建築健保会館 70名

運営:大阪府建築士事務所協会

注)定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

脱炭素社会に向けてー建築計画最前線 3/6 CPD3単位

大阪府より脱炭素社会に向けての国の取り組み方針、大阪府の取り組み方針等について、各スーパーゼネコンより脱炭素社会に向けての最前線の取り組みを、様々な切り口からご講演いただきます。

その後、講演内容を踏まえ、各社の取り組み、今後の方向性と可能性についてディスカッションしていただきます。

日時 3/6(金)

13:45～17:00(集合受付13:30)

受講料 会員3,000円

後援団体3,500円

一般4,000円

会場 大阪府建築健保会館

定員 90名

第10回くらしとすまいを見つめる継続セミナー 「建築家 古谷誠章 講演会

～建築を通して人々が幸福になるまちをつくる～

3/7 CPD2単位予定

「くらしとすまいを見つめる」をテーマとして、ストック社会に向けた課題の解決方法について、建築士として知っておくべき事を学ぼうと継続的に開催してきたセミナーが今回で10回目を迎えます。

これまでのセミナーの振り返りと共に建築家古谷誠章氏にご講演頂き、これからの建築士に必要な力とは何かを考え、共有する機会とします。

日時 3/7(土)

14:00～16:30(受付13:45～)

会場 京都市京セラ美術館 講演室B1F

受講料 会員1,000円 一般1,500円

学生無料

定員 80名

高槻城公園芸術文化劇場見学会

3/19 CPD2単位

日本建築学会作品賞を受賞した高槻城公園芸術文化劇場は、規模や機能の異なる3つのホールと10室のスタジオのそれぞれに「すきま」を設けた分散配置が特徴的な劇場です。設計者よりこれまでの建築設計について語っていただき、この建築を成立させるための工夫等を紹介していただきます。

日時 3/19(木)

14:20～16:15(集合受付14:00)

受講料 会員・一般ともに3,000円

会場 高槻城公園芸術文化劇場 南館

定員 120名

シリーズ第3弾

ウクライナの建築と文化を学ぶ

3/23 CPD2単位予定

建築士の仕事は、建物という箱をつくることでしょうか?2025年7月、実際にウクライナの地に立った講師が見たのは、物理的な破壊だけでなく、積み上げられた文化や日常が断絶された姿でした。日本の建築士が持つ、建築技術、まちづくりノウハウ、そして「場」を再生する力。これらをどう現地の復興支援に結びつけられるのか。メディアだけの情報ではなく、現場の空気を感じた一級建築士と共に、私たちの「職能」が持つ可能性を議論しましょう。

日時 3/23(月)

18:00～20:00(受付17:45～)

講師 松富謙一/一級建築士

(CASEまちづくり研究所代表)

受講料 会員1,000円 一般2,000円

会場 大阪府建築士会 東会議室



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

地域まちづくり委員会・「大阪市東」地域企画
 新入会員歓迎企画!
 大阪城石垣館
 ～地中の豊臣大阪城を体感しよう～
 4/4 CPD2単位予定

新入会員の皆様を歓迎いたします!
 豊臣秀吉が天下統一の拠点として築城した大坂城は、大坂夏の陣で焼け落ちてしまいました。残された石垣は、その後徳川幕府により再建された徳川大阪城の下に長い間眠っておりましたが、大坂夏の陣から400年を機に、大阪市は初代大坂城の石垣を掘り起こして公開する事業に取り組み、令和7年に「大阪城 豊臣石垣館」をオープンするに至りました。

この度、「大阪城 豊臣石垣館」の設計担当者をお迎えし、工事の裏話など交えながらお話しいただきます。その後「大阪城 豊臣石垣館」に移動し、豊臣大阪城石垣の魅力と迫力、そして大阪城天守閣から大阪の街並みを見下ろし、豊臣の世に思いを馳せてください。見学の後、懇親会も予定しています。

日時 4/4 (土) 13:00～16:00
 集合場所 大阪府建築士会 東会議室
 講師 大阪城 豊臣石垣館 設計担当者
 ((株)安井建築設計事務所)
 参加費 会員1,000円 一般1,500円
 新入会員無料
 (R7年4月～R8年3月入会者)
 ※石垣館+大阪城天守閣の入館料
 は別途(大人1,200円 市内在住
 65歳以上無料 他)
 定員 30名(申込先着順)
 申込締切 3/27(金)

大阪避雷針工業神戸営業所
 建築デザイン講習会
 4/21 CPD2単位予定

当初は解体され、建替えられる予定だった築35年の既存建築を、躯体外装を残して再利用し、スクラップ&ビルドを超える価値の創出を目指したプロジェクト。これまで時を刻んできた既存RC躯体のもつ魅力を発見・抽出し、そこに木のもつ特有の力を組み合わせることで、時の流れを味方につけ、100年大

切に使われる建築を見学します。
 日時 4/21(火)
 13:10～16:10(集合受付13:00)
 受講料 会員2,500円
 後援団体3,500円
 一般4,500円
 ※別途、移動のための交通費が必要
 集合場所 (株)竹中工務店神戸支店
 (三宮プラザWest10階)
 定員 40名

ミャンマー大地震を見て 建築士として
 何ができるか
 4/24 CPD2単位予定

昨年ミャンマーで発生した大地震の現地調査へ、7月6日～12日に本会から4名が現地へ渡航しました。現地では、復旧・復興のための各種団体との意見交換、セミナーの開催、大使館への報告会を主導して行い、活動を通じて、応急危険度判定・被災度判定の問題、補強設計・工事監理対策等、様々な問題について考えさせられました。

今回は、現地で行ってきた復興セミナーの内容、現地のリアルな状況について報告を行います。なお、この事業は継続中であり、日本全国47建築士会の中で大阪府建築士会が初めて取り組む国際社会貢献となります。

日時 4/24(金)
 18:30～20:00(受付18:00～)
 会場 大阪府建築士会 東会議室
 講師 岡本森廣会長 ほか
 受講料 会員1,000円 一般2,000円
 定員 30名

建築基準法及び同大阪府条例質疑応答集
 改訂第7版 書籍データ公開について

この度、令和2年に発行いたしました「建築基準法及び同大阪府条例質疑応答集 改訂第7版」の書籍データが大阪府内建築行政連絡協議会のHPにて公開されました。本書は、法令解釈の普及と建築士の利便性の向上を目的として、法令の個々の条項をQ&A形式で解説した建築確認の実務書です。ぜひ日々の業務にお役立てください。

なお、書籍販売は既に終了しております。

その他のお知らせ

あつまれ!けんちく女子
 3/14

「あつまれ!けんちく女子」は、建物づくりに関わる女性が職種や世代をこえて集まり、気軽につながる交流イベントです。仕事への思いや経験をシェアしながら、横のつながり・縦のつながりを広げ、建築業界で働く私たちの“今”と“未来”を一緒に描いていきます。新しい出会いや気づきを楽しみに、ぜひご参加ください。

日時 3/14(土) 13:30～16:45
 会場 マイドームおおさか
 詳細 大阪府建築士事務所協会HPにて

Talk Relay “わたしの推し” 記事募集

会員の皆さまの趣味やコレクション、特技、見聞など、リレー形式でご紹介していきます。建築に限らず、紹介したいこと、知って欲しいこと、広めたいこと、誘いたいこと、自己満足でも結構です。会員の皆さまのコミュニケーションの場の一つとして、ご活用ください。投稿をお待ちしています。

●詳細・申込は事務局まで

建築士会全国大会おおさか大会を終えて

記念行事担当部門長 仙入 洋

2025年9月19日(金) 第67回建築士会全国大会おおさか大会が無事終了した。大阪・関西万博2025の開催に合わせ、通常より1ヵ月前倒しで実施した。大きなトラブルもなく無事終了したことに、関係者一同、参加者の皆さんに改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。大阪での開催が決まった時、思い出したのは2011年8月20日に開催予定だった幻の全国大会おおさか大会。2011年3月11日に起こった東日本大震災のため、約半年前にして開催を断念したのを鮮明に覚えている。当時、青年委員会副委員長として準備に奔走していただけに、重い決断だった。

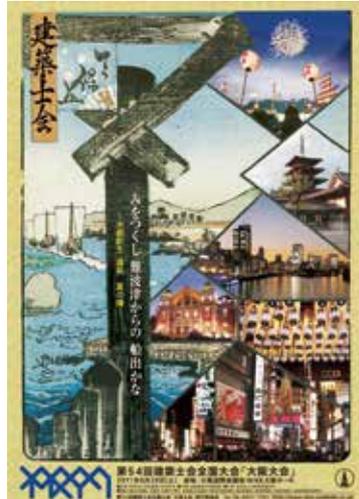
当時の青年委員会では、大阪・建築士をテーマとしたオリジナルの短編PR映画「らぶ OS AKA」を制作し、2010年の佐賀大会のPRタイムで当時の柳川陽文会長(現名誉会長)を筆頭に舞台でPR演出を担当したことが思い出される。



2010年に制作した短編PR映画 らぶ OS AKA

ここで、2011年と2025年の大会テーマを見比べてみる。2025年の大会テーマ「建築からソーシャルデザインへ」は、大阪という地域と建築の射程を越えようとする意図が感じられる。世界中から大阪に多くの人が集まる万博という絶好の機会に、建築士の職能の範囲を国や専門の境界を越えて広く社会課題に広げることが宣言している。敢えて副題を付けなかったのは、このテーマを受け取った建築士が自分事として捉え、それぞれが思考・行動する余白を残したいと考えた結果である。

一方、2011年の大会テーマ「みをつくし 難波津からの 船出かな一水都創生・逢坂 夏の陣一」の策定に直接携わったわけではないが、当時の柳川会長の言葉を紹介する。



おおさか大会2011年用に制作したポスター

建築士は社会のために身を尽くす職業であり、歴史を難波津の時代まで遡り、現代人よりも元気であった先人に負けないように、水都大阪を再生する目的で、未来に向けてリ・スタートさせるということです。

また「逢坂 夏の陣」とは、建築士法の下で与えられた責務やミッションを果たすために、職業を通じて社会に対してどう貢献すべきかを「おおさか」の地で、大いに議論をして、その決意を社会に発信するという意味が含まれています。

時代背景の違いはあるが、建築士として社会に対して何ができるかをテーマとしている点では同じである。ちなみに、記念講演会は安藤忠雄氏、演題は「がんばれ 建築士」の予定であった。

おそらく一生に一回限りの経験となる大阪での建築士会全国大会を終えホッとしているが、建築士会・建築士として今後の進むべき道のヒントを示すことができたのだろうか？大阪・関西万博2025での展示協力の紹介も兼ねて少し考えてみる。

大阪・関西万博2025会場のヘルスケアパビリオン内、ミライの都市ゾーンの一画に「みんな暮らしの街」の展示がある。公益社団法人全日本不動産協会による出展で、大阪府建築士会としてその内容制作に協力させて頂いた。ヘルスケアパビリオンHPで紹介されている展示趣旨は下記の通り。

ますますひとり暮らしが増える2050年の都市。医療や福祉のサービスは、ご近所さんどうしや地域の仲間が助け合う共助の仕組みになっています。地域の住まいやコミュニティを支える専門家「ミライの宅建士」といっしょに、「ひとり暮らし」から「みんな暮らし」になった、あたらしい街づくりを進めましょう。



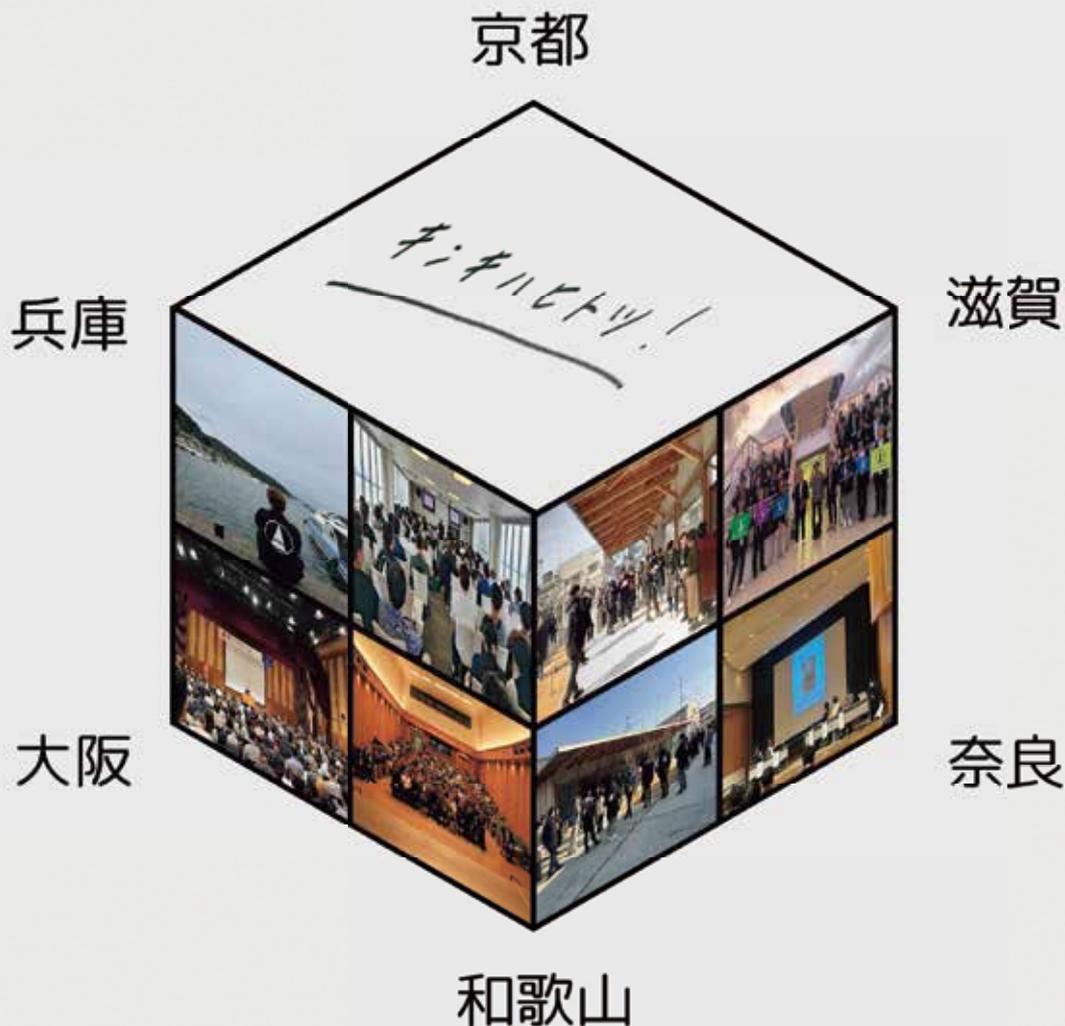
コンペの最終審査：受賞者と審査員／学生の部

大阪府建築士会としては主に、2050年のミライのスマイの可能性についてアイデアを広く募る「ミライREBORNスマイプロジェクト」コンペの実施に尽力した。多様な分野からの審査員のもと、有意義なコンペが実施され、ユニークなアイデアが多数集まり、その優秀作を万博で映像展示した。



大阪府建築士会の案内チラシ(一部抜粋)

「建築からソーシャルデザインへ」は2013年に大阪府建築士会のビジョンとして制定したテーマでもある。今回の全国大会をきっかけにそのテーマについて改めて考え、実行に移す良い機会を得たと考えている。専門を越え、地域や国を越え、世代・時代をも越える。「あらゆる境界を越え、連携・協働・共創する姿勢と実行力」がこれからの建築士には必要だと感じている。



近建青とは

- 一 近畿2府4県の建築士会は、近畿ブロックとして近畿建築士会協議会を設置し、近畿としての活動を行っています。
- 二 近畿建築士会協議会青年部会（近建青）は、近畿建築士会協議会に所属し、近畿2府4県の各建築士会青年委員会・部会から3名ずつ派遣される委員に加え、部会長、副部会長、相談役で構成されています。

近建青の役割

- 一 各府県における地域の特性に応じた様々な委員会活動を広く一般市民の方々に周知すること
- 二 『キンキハヒトツ!』を合言葉に、各単会の情報や問題意識を共有することで、同じ志を持った単会の垣根を越えた友情の輪を広げ、将来的に建築士会を盛り上げていく人間関係を構築すること
- 三 近建青において、青年委員の資質向上(意識改革)につながる議論を行い、なる府県の活動を知ることにより、自県での活動に活かしてもらうこと

近建青の活動内容

- 一 各府県青年委員会の交流・情報交換
- 二 建築に関わる社会貢献活動の推進・広報
- 三 建築とは直接関わりのない団体や学生も含め、近畿各地でまちづくりなど社会貢献活動に頑張っておられる方に光を当て、一般参加者や、学生とのネットワークを構築する活動を行っています。
- 四 建築士の資質向上活動の推進
- 五 建築士・建築士会の認知度向上の推進
- 六 連合会青年委員会への委員派遣



地域に根づく温かさと気品を求めて

佐賀県立図書館 一九六二年

文・写真 松隈洋「神奈川大学建築学学部教授」

今から六〇年以上も前に、こんなに質の高い県立の公共図書館が佐賀県に建てられ、今も現役のまま大切に使われていることに感銘を覚えた。一九六二年十一月に竣工し、翌一九六三年一月に開館した佐賀県立図書館は、誰もが自由に本を手にとることができる書棚が並ぶ開架式の閲覧室を持つ戦後型の図書館の出发点となる神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年／前川國男）を別格とすれば、香川県立図書館（一九六三



南側から見た外観全景



二階上部ロフトの開架閲覧室

年／芦原義信）、大分県立大分図書館（一九六六年／磯崎新）、千葉県立中央図書館（一九六八年／大高正人）、山梨県立図書館（一九七〇年／鬼頭梓）に先んじており、戦後の先駆的な公共図書館の一つだと言えるのだろう。敷地に選ばれたのは、北側に濠割が残る旧・佐賀城内の楠の大木が生い茂る県立公園の予定地だった。一九六〇年九月、その設計が委嘱されたのは、三五歳の少壮の東京大学助教・内田祥哉（一九二五〜二〇二一

年）である。しかし、内田は、おそらく、香川県庁舎（一九五八年）などで、研究室の学生たちと設計に取り組んでいた丹下健三の姿を目撃していたのだろう。没後に発行された貴重な回想録（権藤智之・戸田稜編『内田祥哉は語る』鹿島出版会二〇二二年）の発言によれば、「丹下さんとかを見ていたら、大学で仕事をするのはいろいろ問題があることは痛いほど知っていた」という。そのため、おりしも、第一工房という設計事務所を設立したばかりの高橋誠一（一九二四〜二〇一六年）に声をかけ、協力を求めたのだ。ちなみに、内田と高橋は、敗戦直後の占領下に東京帝国大学建築学科を卒業後、通信省営繕部設計課で建築技師として働いた同じ経歴を持つ気心の知れた間柄だった。こうして、国立大学の教員と民間の建築家とのユニークな共同設計がスタートする。また、この特命による設計の委嘱は、一九五四年に友人たちとチームを組んで応募した国立国会図書館の公開コンペで三等に入选した実績と、佐賀出身の内田の義父が当時の佐賀県知事と戦前に会計検査院の同僚で知り合いであったこと、そして、東京大学建築学科の建築計画学講座の教授・吉武泰水（一九一六〜二〇〇三年）の下にいた内田が実務経験を持つ研究者であることから、県からの信頼を得て実現したのだろう。そのことは、竣工後、内田が建設計画をめぐる設計経緯について記した、次の文章からも読み取れる。

「立地選択から、我々の仕事は初まった。公園は、建べい率の制限をうけ、（…）図書館は三階建になるというのが当初の状況であった。図書館の様に平面的なつながりを重要視する建物にとつて三階建という天下一条件はどうしても計画を歪めると考えていたのだ。第一の仕事は、公園の敷地を拡張して許容建築面積を増やすことだった。知事の強力な援助のおかげで、公園の拡張が実現し、図書館は二階建、更に将来は体育館も建てられるという条件がきまる迄に、大凡半年を経過した。」（『近代建築』一九六三年五月号）

この証言からは、坂倉準三の佐賀体育館を含む公園全体の計画が、内田らの働きかけによって進められていたことがわかる。また、内田は、別の文章（『建築文化』一九六三年三月号）の中で、「県立図書館のプロトタイプとなるもの」を目指し、「モデュラー・オーダー・ディネーションをする」となどもテーマに設定したと記しており、与えられた一年間の設計期間を活かした入念な検討作業が積み重ねられていく。

こうして完成した図書館は、敷地北側の濠割に沿うように、幅四〇m、奥行き三三mの長方形のグリッド・プランと、その交点に整然と並ぶコンクリート打放しの独立柱による極めてオーソドックスな平面計画からできている。また、一階の中央を南北に貫く高い天井の展示ホールと、雛壇状に上下二層に取られた吹抜けの玄関ホールによって、全体の中心軸としての象徴性と入館者にとつて分かりやすい明快な空間構成が生み出されたのである。しかも、この中央を貫く柱間八m、長さ三二mにわたるひと続きの吹抜けのホールは、床面を玉砂利の洗い出し、両側の壁面をコンクリート研り仕上げ、天井面は打放しコンクリートの梁

を露出させることによって、公共空間としての骨太さを併せ持っている。外観も、敷地を拡張してまで、高さを二階建に抑えながら、建物の外周にバルコニーと庇を廻すことによって、城跡の緑豊かな公園にふさわしい水平線を強調した落ち着いたたたずまいを実現させる。また、核となる二階の閲覧室は、光庭をコの字形に取り囲み、全面ガラス窓の開放的で明るい雰囲気にとめられた。さらに、秀逸なのは、二階中央の目録室上部を居心地の良いヒューマン・スケールの開架閲覧室がロフト状に廻っていることだ。内外壁の随所に効果的に使われたクラフト的な風合いの有田焼のタイルや、木製の太い手すりなど、細部まで丁寧につくり込まれており、建物全体から温かさと気品が漂う。

内田は図書館建築に何を求めたのだろうか。そのことを知る手がかりが、通信省時代に親交のあつた尊敬する吉田鉄郎（一八九四〜一九五六年）の没後、新たに発見された書簡を編んだ著書に寄稿した長文の論考に書き留めた、次の言葉から読み取れる。

「吉田さんの最も創りたかったものは、目新しくなく、いやみがなく、どこにもここにもあるようなもので、しかも人の心に訴えるものであった」（吉田鉄郎さんのことども）向井寛・内田祥哉編『建築家・吉田鉄郎の手紙』鹿島出版会一九六九年」

この言葉どおり、佐賀県立図書館が今も親しまれているのは、そこに、気負いのない「人の心に訴える」質感と普遍的な姿を追い求めた内田の建築思想が込められているからなのだと思う。

耐火認定取得

アルミハニカム パネル

薄くて軽量

* 厚み 85 mm~



豊富なバリエーション

上支持

厚み 110 mm
135 mm

厚み 85 mm
110 mm

* 下支持

薄くても耐火性に優れ、
意匠の自由度も高いため
さまざまな建築シーンで活躍します。

選べる天井面化粧板

不燃認定アルミハニカムパネルと先進技術を融合した
ハイブリッド耐火認定アルミハニカムパネル

認定番号：FP030RF-2063（屋根30分耐火 上支持）

認定番号：FP030RF-2074（屋根30分耐火 下支持 厚み 85 mm）

：FP030RF-2075（屋根30分耐火 下支持 厚み 115 mm）



安田株式会社

お問合せ先：マーケティング開発部
製造元：ALHeXa株式会社

<https://ashibane.co.jp>
info@ashibane.co.jp

▶東京(03)-5858-0271 ▶大阪(06)-6251-7152





屋上



和室